

◆学校だより◆



Obihiro Kashiwa Elementary School

開校 大正9（1920）年



かしわ



帯広市立柏小学校

保護者・地域との

より強い 紣 をめざして

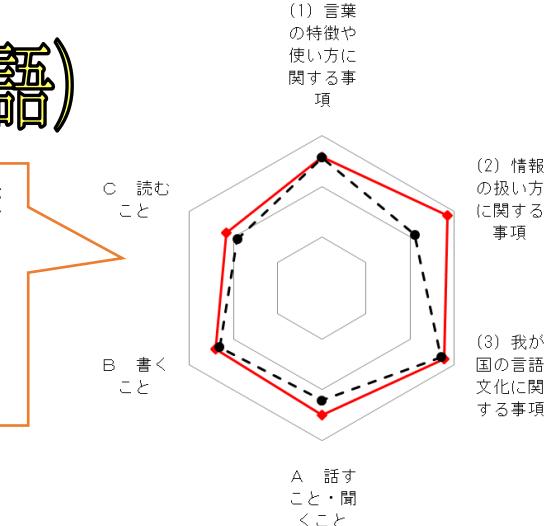
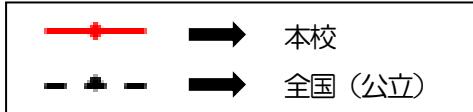
令和7年12月12日 23号

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる』『そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』ことを目的として小学校第6学年で毎年行われている「全国学力・学習状況調査」が、令和7年4月17日（木）に全国一斉に行われました。本校児童の学力の様子を分析・対策とともにお伝えいたします。

柏っ子の学力について（国語）

グラフは、全国平均正答率を黒の点線で表した時の本校の平均正答率を赤の実線で表したものです。



<国語の結果と分析>

正答率は全国平均を大きく上回りました。

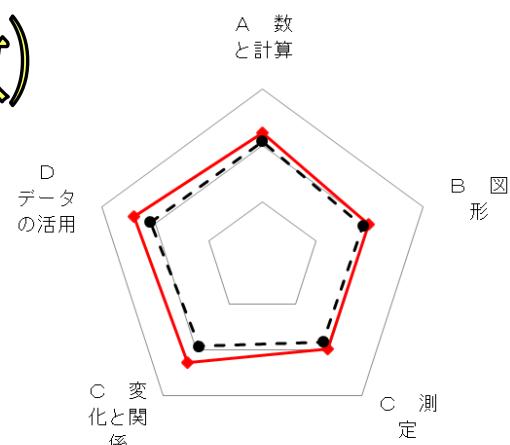
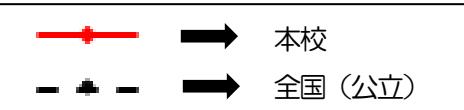
- 記述式の問題における無解答率が低く、最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえる問題の正答率が高く、要旨をつかむことができる児童の割合が高いことがわかりました。
- 漢字を正しく書くことに課題がみられました（暑い日の「暑」の漢字）。
- 複数の資料を読み解き、情報を関連付けたり、言葉の知識を概念的に理解したりする力や目的に応じて、文章と図表などを結び付ける力に課題が見られました。

<対策>

- ・授業で複数の資料から、必要な情報を結び付けて文章を書いたり、条件に合わせて答えたりする場面を意図的に設けながら、情報を有効に活用する力を育てていきます。
- ・ICTを最大限に活用しながら、友達の考え方と比較したり自分の考え方を取り入れたりするといった協働的な学びを推進します。

柏っ子の学力について (算数)

グラフは、全国平均正答率を黒の点線で表した時
の本校の平均正答率を赤の実線で表したものです。



<算数の結果と分析>

正答率は全国平均を上回りました。

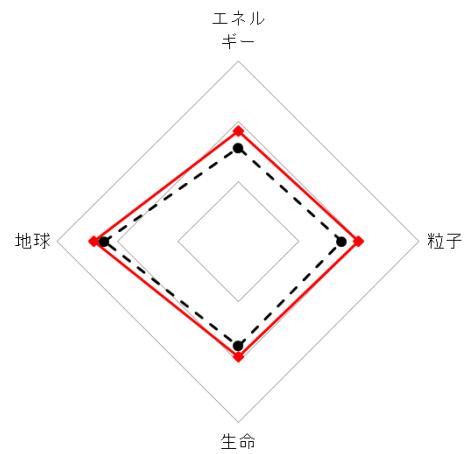
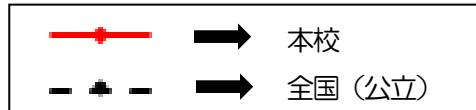
- 国語同様、記述式の問題における無解答率が低く、最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。
- データの活用に関わる問題と変化と関係に関わる問題の正答率が全国平均を上回りました。
- 算数の学習に対する苦手意識が強い傾向がみられます（質問紙調査より）。
- 解答に導く根拠を、式と言葉で説明する問題に課題がみられました。

<対策>

- ・必要に応じて、習熟度別学習・少人数学習を実施し、学習内容の確実な定着を目指します。
- ・算数に対する苦手意識を減らせるよう、「できた」「わかった」が感じられる授業を目指します。
- ・四則計算などの基礎・基本的な力だけでなく、解き方の説明や考え方の根拠を説明するような場面を意図的に設けながら、説明する力を育てていきます。

柏っ子の学力について (理科)

グラフは、全国平均正答率を黒の点線で表した時
の本校の平均正答率を赤の実線で表したものです。



<理科の結果と分析>

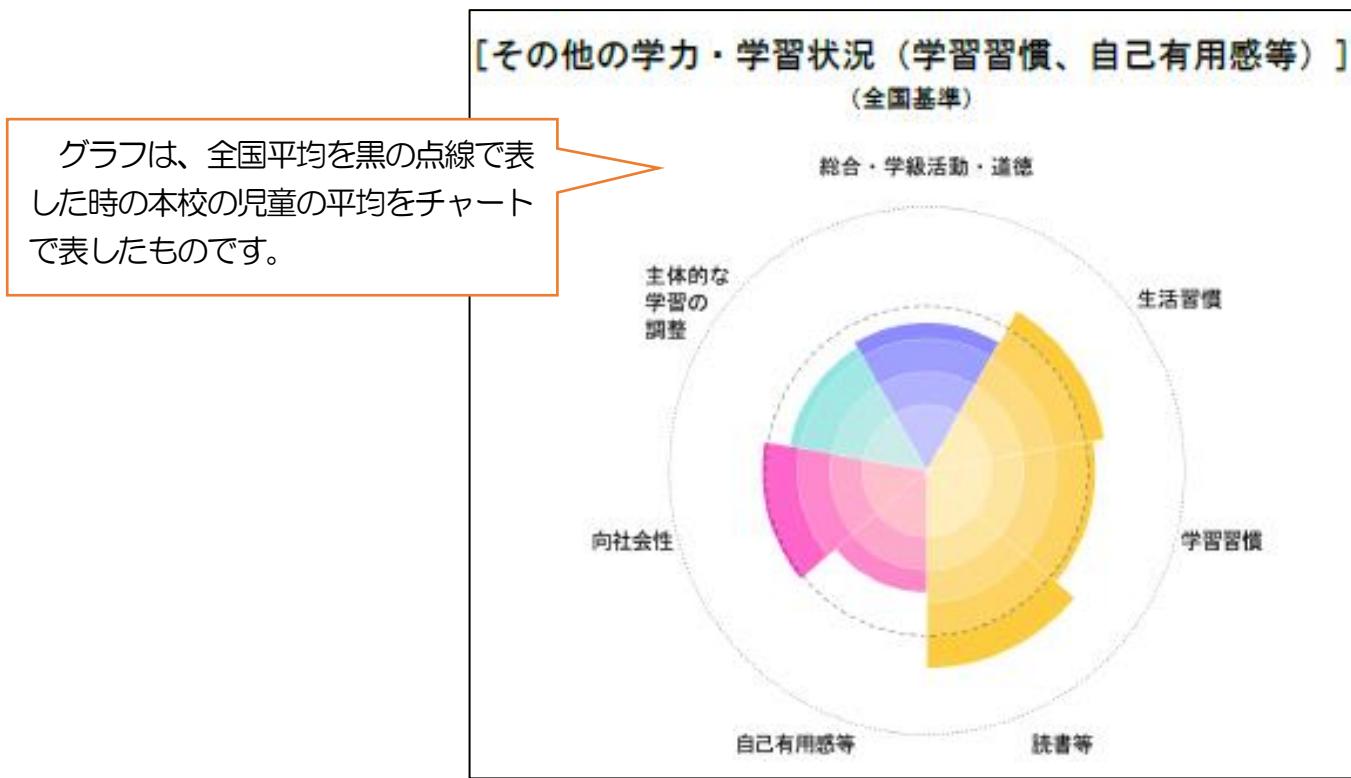
正答率は全国平均を大きく上回りました。

- 国語同様、記述式の問題における無解答率が低く、最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。
- 地球分野で、水のしみこみ方の違いについて、結果から結論を導いた理由を表現する問題の正答率が高いことがわかりました。
- 解答に導く根拠を、言葉で説明する問題に課題がみられました。
- 学んだことを身近な生活に結び付けて考える問題に課題がみられました。

<対策>

- ・身近な生活とのつながりが実感できる授業を行い、学んだことと生活をつなげられるように授業改善を行います。
- ・身に付けた知識を基に課題を見いだしたり、実験結果が出るまでの過程や結果から考察推論したりする場面を多く設けて、説明する力を育てていきます。

児童質問紙調査の回答より



<児童質問紙の結果と分析>

- 自分の生活に満足しているという児童の回答が8割を超えるました。
- 同じ時刻に寝たり起きたりする児童の割合など、規則正しい生活を実践しているという児童の回答が9割を超えるました。
- 家庭では、計画を立てて1時間以上勉強をしている児童の割合が全国と比較して高いことがわかりました。
- タブレットを活用してスライドや文章を作ったり、タブレットを使って調べたりする力に自信がある児童の割合が全国と比較してかなり高いことがわかりました。
- わからないことや詳しく知りたいことがあった時に自分で学び方を考え、工夫することができていないと答えた児童の割合が全国と比較して多いことがわかりました。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができないと答えた児童の割合が全国と比較して多いことがわかりました。
- 困りごとや不安がある時に、大人に相談することができないと答えた児童の割合が全国と比較して多いことがわかりました。

<対策>

- ・授業の中で、自分で学び方を選択したり工夫したりするなど、主体的に取り組むことができるようになるとともに、学んだことを実生活に結び付けて考えることができるような場面を多くし、子どもたちの学び方や生き方の形成につなげていきたいと思います。
- ・子どもたちが困った時に相談しやすい環境を作り、安心感のある学校を目指していくとともに、自己有用感の感じられる教育活動を推進していきます。